

令和2年度 第1回近江の地場産業および近江の地場 製品の振興に関する施策推進協議会における主な意見

日 時 令和2年8月24日(月)

10:00~11:30

場 所 滋賀県庁 北新館 5-A 会議室

1 議題

- (1) 令和元年度 近江の地場産業および近江の地場製品の振興に関する施策の実施状況について
- (2) 報告「令和元年度 近江の地場産業および近江の地場製品の振興功労者の知事表彰」について
- (3) その他
 - ・新型コロナウイルス感染症に関する情報交換
 - ・委員の継続依頼について

2 主な意見

議題(1) 令和元年度 近江の地場産業および近江の地場製品の振興に関する施策の実施状況について

【ここ滋賀について】

- ・地場産業・組合は、ここ滋賀に期待している。できて3年、成果も実感しているが、それ以上に期待をしている。
- ・スペースが限られているので、催事(実演やワークショップなど)の場所がない。正面入ったわずかなスペースしかない。地場製品になると価格も高価だが、良さを知ってもらおうとすると、直に触れる、製作過程を見てもらうことで、その価値が伝わる。
- ・3階の屋上は使いにくいところもあるが、3階をもっと活用できれば、という意見もある。3階に上がる導線わかりにくいので、工夫して地場産業振興につなげてほしい。
- ・ここ滋賀で催事を行った際、3階屋上でテント張ってなんとか実施したが、エレベーター横での掲示は不可など制約が多く、成果がでなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症で生活の仕方が変わってきた。今の時期、東京の人は都外に出られないため、ここ滋賀や各地のアンテナショップを巡る旅ということで、アンテナ

ショップを巡って買ったり食べたりしている。こういったビジネスチャンスもあるので、

- ・滋賀の山を登ろうというイメージで3階も活用したりしてはどうか。

議題（2）報告「令和元年度 近江の地場産業および近江の地場産品の振興功労者の知事表彰」について

- ・農林漁業も知事表彰があり、毎年実施している。そちらではがんばっている若手の表彰も行っている。モノづくりでは難しいかもしれないが、参考までに。

議題（3）その他 ・新型コロナウイルス感染症に関する情報交換

- ・長浜市は、「事業そのものの継続の支援」、「緊急的な事業資金のもの」、「消費喚起の施策」に取り組んでいる。国からの一律10万円の給付金もあった。このようなお金を地域の中でまわしてもらうような仕組が大事。
- ・仏壇は組合活動がほぼ停止。仏壇業界、高齢者が多くテレワークまで行っていない。上海へ全社が各10本をJETRO負担で出展し、大型仏壇が売れた。上海では日本の伝産品をたくさん販売している。まだまだ売れる、と業者は言っている。一方、重慶では売っていない。上海は富裕層狙い。重慶では単価の安いものしか売れない。そういった点でも上海で出展ができてよかった。
- ・県でも業種問わず、感染症対策で1社10万円の助成金を開始。今後の補正では、地場産品を買ってもらうため、旅館に対しておもてなしのために地場産品を購入してもらう予算を検討している。
- ・食品では、新型コロナウイルス感染症の情報は食品産業協議会へ入ってきているので、会員企業のところへ、いち早く情報を提供することに努めている。
- ・繊維関連では、綿麻絹の3産地とも、非常に疲弊している。長浜は行事も一切中止で、先月のちりめん生産量は前年比85%減。シルクのマスクはNHKでも取り上げていただいたが、本業を支えるほど売れてはいない。浜ちりめんは展示販売が主流なのに、各催事が中止となり、大きな展示販売会ができないので厳しい。高島は早くからマスク販売に取り組んでいた。前年のマスク売り上げをすでに達成するほど好調で、それで何とかかなっている。綿の需要は夏なので、来年度の夏に向けた準備や業者とのやりとりで、秋冬は忙しくなる。麻もマスク販売はしているが、具体的な数字は聞いていないが厳しい状況。

- ・漁連関連では、飲食業ホテル旅館自粛の影響が響き、需要減。鮎の友釣りの注文半減。人の動きが減って釣りへ出かける人が減った。
鮮魚、1kg 1100円→500円に。獲っても買ってもらえない、安い。ホンモロコも魚は増えてきているが単価が下がっている。
国の補助金を活用して、通信販売を手掛けて活路見出すことを考えていたが、冷凍冷蔵庫買おうと思っても、他に汎用できてしまうので補助金対象にならない。県の宅配料の補助事業はありがたい。
- ・農業関連では、全般的にコロナの影響出ている。特に、畜産、お茶、米、野菜。業務用、飲食店の低下、学校給食休止の影響が大きい。近江牛は子牛から育てて売るため、コストがかかる。赤字が埋まらない分を補助金で若干持ってもらっている。学校給食で例えば小松菜いらないと言われても、2か月前には植えている。お金もらえず了解するしかない。学校給食の関係については、市町に通常の商行為としての契約と理解してもらいたい。お茶も減っている。
- ・一つの産地だけでウェブ催事やっても集まらない。県が横の連携を受け持って、催事的なものを開催するとか。大学でも講義動画をあげているが、いつでも見られるので好評。若い人はそちらがメインとなりつつある人もいる。大学も、ウェブでの教授会などコロナ前はなかった。対応の支援あってもいいのでは。遠方の人とすぐ繋がることできる。そこでどうアピールするのか、プレゼンの仕方など考えるきっかけにもなるのでは。
- ・PR活動もどこまで対面で行う必要があるか、見極めが大事。全てがオンラインでは難しいが、どこまで効果的にできるか検討は必要。学会では繊維と安全安心に関する研究が加速している。滋賀の天然繊維の産地と安全安心をもっと意識した支援と、着る場を作ることを絶対に考える必要がある。
- ・生き方、生活の仕方が変わってきた。そこから新しいビジネス考えるきっかけ。働き方改革で職場に行かない働き方を考えると、滋賀県は環境が恵まれている。アピールする方法、移住を促す、衣食住全て整っている。総合的にアピールするチャンスがあるのでは。難しい時代だが、大きく転換することも可能。滋賀県は可能性ある。そういう視点からも考えてほしい。